

経済状態が悪化し、大量生産・大量消費の生活が虚飾に満ちたものであったとふり返るかたも多いのではないのでしょうか。「もったいない」は海外のかたから評価された日本語ですが、40年ほど前まではあたりまえのこと。破れた衣服は繕い、つぎを当てる着ました。小さくなったセーターはほどいてその毛糸で新しいものに作りかえました。ものは最後まで生かしました。食べ物も時季の食材でくふうして作り、むだなくくりまわし、家族の健康を支えてきました。それほどのものがなかったといえます。

流行を追って新しいデザインの洋服を求め、まだ着られる洋服を処分する、世界じゅうから食べ物を買って求め、流行で食べるなど、大量に作って大量に廃棄する状況がありました。昨年の中国産冷凍

ギョウザ事件では、ギョウザを買って食べる人の多さに驚きました。ハンバーグもグラタンも家で作れることを知らない人もいます。自分で作れば経済的ですし、衛生管理にも目が行き届きます。すべて外食や中食に頼っているのは、健康は守れません。日常ありふれた料理に暮らしの基本があります。

過剰に生産し  
過剰に消費する  
社会は成り立ちません

日々の  
暮らしに

香川芳子

女子栄養大学学長



え/平野こうじ